



# 二葉だより

令和4年9月1日 NO.6  
墨田区立二葉小学校  
校長 山崎 隆



## 令和の怪物の秘密と子供たちの学び その2 ～「動きの再現性」編～

校長 山崎 隆

42日間の夏休みが終わりました。連日のように新型コロナウイルス感染症第7波や熱中症の予防と注意を促すニュースが流れていましたが、長い休みを通して子供たちがそれぞれ過ごした貴重な時間やいろいろな体験、心に残る思い出を、これからの学校生活に生かしてほしいと思います。

さて、「二葉だより7月号」では、令和の怪物・佐々木朗希投手の秘密と子供たちの学びについて関連付けて書き始めたところで終わっていましたが、今回はその続きです。佐々木投手の秘密「動きの再現性」を子供たちの学びに置き換え、いつでも・どこでも・誰にでも使えるそして伝わる考え方を話し合う学習について、3年生算数の授業を例にお話します。

問題 たろうさんが1000円持って買い物に行きました。はじめにパン屋で250円のパンを買い、次に果物屋で120円のリンゴを買いました。最後に文房具屋で80円の消しゴムを買いました。おつりはいくらでしょう。

この問題にAさん、Bさん、Cさん、Dさんの4人が次のように答えました。

Aさん  $250+120+80=450$   $1000-450=550$  答え 550円

Bさん  $1000-250-120-80=550$  答え 550円

Cさん  $1000-250=750$   $750-120=630$   $630-80=550$  答え 550円

Dさん  $1000-250=750$   $150-120=30$   $100-80=20$   $500+30+20=550$   
答え 550円

答えはすべて550円ですが4人とも式が異なります。算数の授業ではそれぞれの考えについて学級みんなに説明して考えを共有します。Aさんは、支払った金額を合計して、持っていた1000円から引いておつりを計算しました。Bさんは1000円から支払った順に引く式を立てて計算しました。Cさんは買い物をするたびにおつりを計算して最終的に答えを導きました。このように算数の学習では、子供たちはひとつの方法だけではなくいろいろな考え方を発表して話し合いを進めていきます。この場合、A、B、Cの3人の考え方は式を見ても納得がいくと思います。一方、Dさんの考え方は式を見ただけでは分からず、どうやって答えを導いたのかみんな考え込んでしまいました。

Dさんの説明は次のようなものでした。

パン屋さんで250円つかって1000円払ったら、500円玉と100円玉2枚、50円玉1枚で750円のおつりをもらいました。次に果物屋さんで120円のリンゴを買って、持っている750円の中から100円玉と50円玉で150円払って30円のおつりがきました。最後は文房具屋さんで100円玉で80円の消しゴムを買っておつりを20円もらいました。持っているお金は500円と30円と20円だから合わせて550円になります。

Dさんは、自分が買い物をして実際にお金のやり取りをしておつりをもらう様子をそのまま式に表していたのです。では、Dさんの考え方はまちがいののでしょうか。この後の展開は学級全体での話し合いになるのですが、続きはまた次の機会といたします。